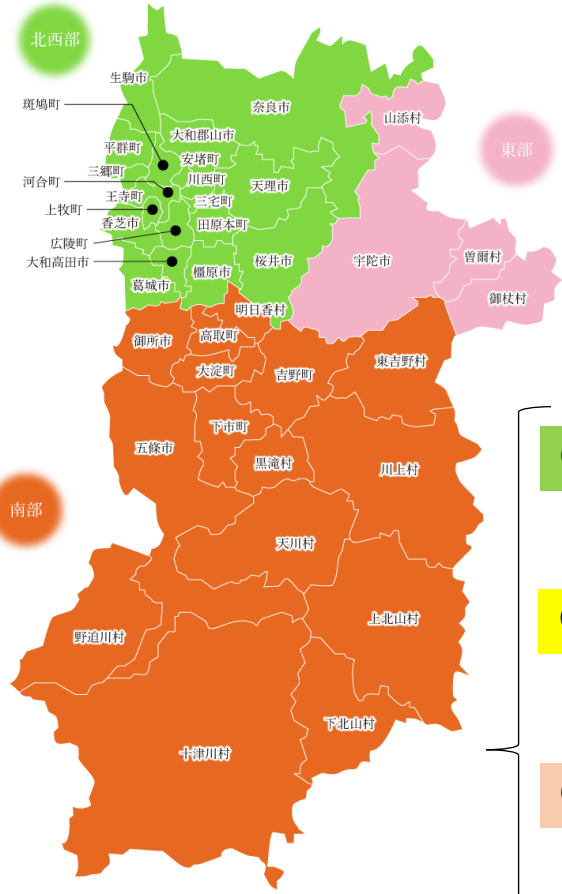


奥大和地域は、県の南部・東部に位置し、その広大な山岳地域と高原から、多数の薬用植物資源（野生品）が存在する。特に、山岳地域で見られる「カギカズラ」「オオツツラフジ」「クズ」は、国内での使用量上位60品目の生薬資源に該当するため、かなりの需要があるほか、「クロモジ」など、その清涼感のある香りから、香粧品などへの活用が見込まれる。そこで、本地域の有用資源の活用を目指し、以下の研究を行うことにより、収益性の確保、雇用の確立の一端を担う。



カギカズラ (釣藤鈎)
国内使用量29位



オオツツラフジ (防已)
国内使用量42位



クズ (葛根)
国内使用量17位



クロモジ

多数の薬用植物資源

利活用に係る研究

①生薬への適合性の有無、流通品との同等性調査 (奥大和地域の生薬流通評価事業)

薬用植物を生薬として活用するためには、公定書である日本薬局方等の規格を満たす必要がある。また、野生品が流通品と同等性を確認する必要があるため、指標成分含量の調査を行う。

②新製品の開発 (奥大和地域の生薬及び製品開発支援事業)

生薬としての活用のみでなく、得られた生薬の地産地消化及び活用を促進するために、医薬品や化粧品等に活用し新製品の開発を行う。

③有用成分の検出 (奥大和地域の生薬及び製品開発支援事業)

生薬部位以外の未利用部位について、サステナブルな社会を目指すために利活用を行うため、有用成分の検出を行う。

④薬用植物資源の調査 (奥大和地域の薬物植物資源調査事業)

奥大和地域に眠る薬用植物資源について、市場への供給量が確保可能かを見据えた昭和期以来の植物調査を行う。

奥大和地域
(地図の緑色を除く部分)